



## しなやか先端技術企業

環境にやさしいテクノロジーで未来を創造

 **ワイエイシ株式会社**

東証1部 証券コード:6298

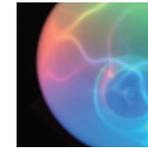
### 事業フィールド



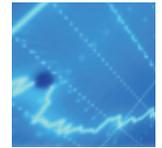
ハードディスク



精密熱処理



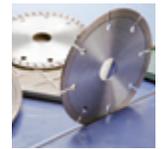
液晶



工業用計器・制御通信



半導体



精密切断



太陽電池



レーザープロセス



ライティング



クリーニング

## 第44期 中間 ビジネスレポート

平成27年4月1日～平成27年9月30日

## トップメッセージ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに『第44期中間ビジネスレポート』をお届けいたします。

当第2四半期の業績は、対前年同期比大幅増となる連結業績予想を発表しておりましたが、ほぼ予想通りの結果をあげることが出来ました。当第2四半期におきまして、我々の主力市場の一つである中国の景気減速懸念から株式市場に混乱が見られましたが、現在のところ中国からの受注は引き続き好調な水準を維持しております。今後も引き続き、通期業績予想の達成に向けて、営業活動並びにコストの削減を進めてまいります。

また、第2四半期の配当金は1株につき10円とさせていただきます。株主の皆様への利益還元を経営上の重要なテーマのひとつと位置づけ、業績や事業計画などを総合的に勘案し、安定

的な配当を継続することを基本方針としております。引き続き競争力の強化に努め、株主の皆様への利益の拡大に努めてまいります。

当社グループは、「より多く社会に貢献する」を目的・使命として、「規模の拡大」・「高収益体質の確立」を事業活動の指針に掲げ、経営者と社員が一丸となって挑戦し続けております。当社はM&Aによる規模の拡大を積極的に推進しておりますが、ここ数年内にグループ会社化した株式会社ワイエイシイデンコー、大倉電気株式会社及び株式会社ワイエイシイダステックは当第2四半期の業績に大きく貢献しております。また、当期新たにグループに加わった日本ガーター株式会社が、当第3四半期より当社の連結業績に寄与いたします。今後も既存事業における規模の拡大並びにM&A、アライアンスに積極的に取り組み、更なる経営基盤の拡充を進めてまいります。

これからも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年12月



代表取締役社長  
百瀬 武文

さあ今日も、  
ときめきと感動の日々であれ！

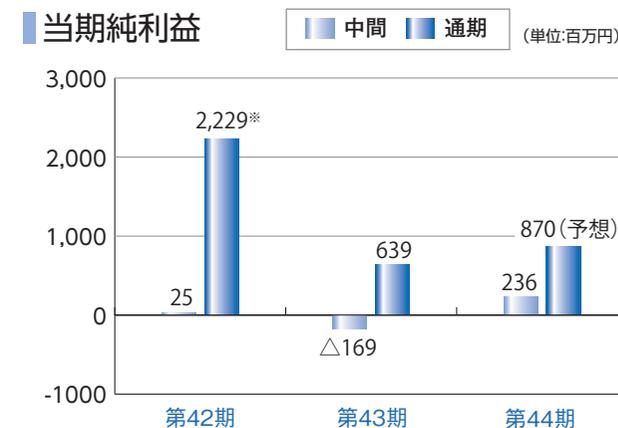
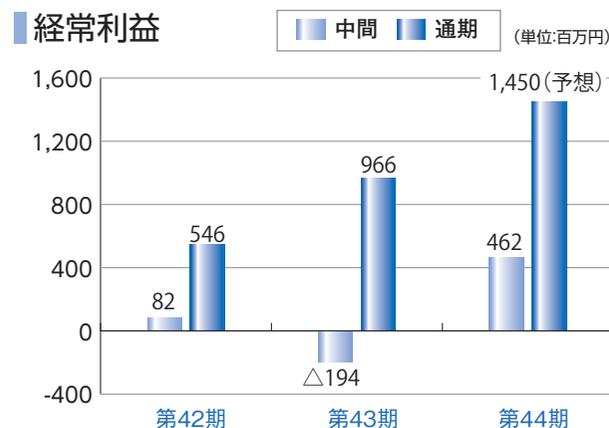
### 創業理念

1. 技術集約会社
2. 旺盛なバイタリティー
3. リスクに果敢にチャレンジする
4. 少数精鋭主義

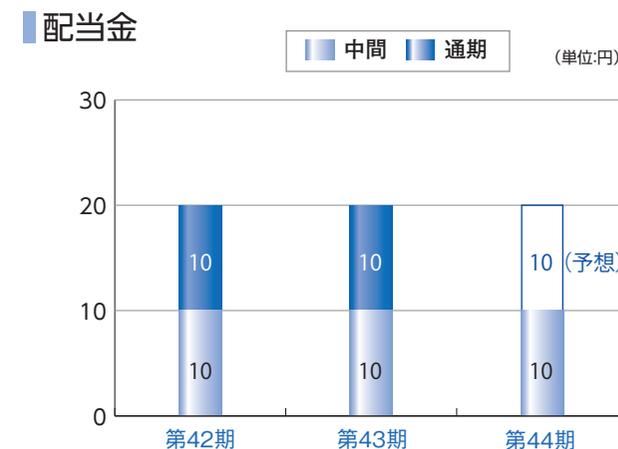
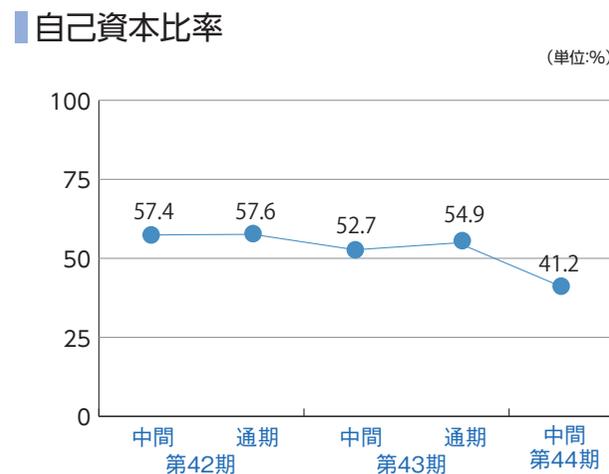
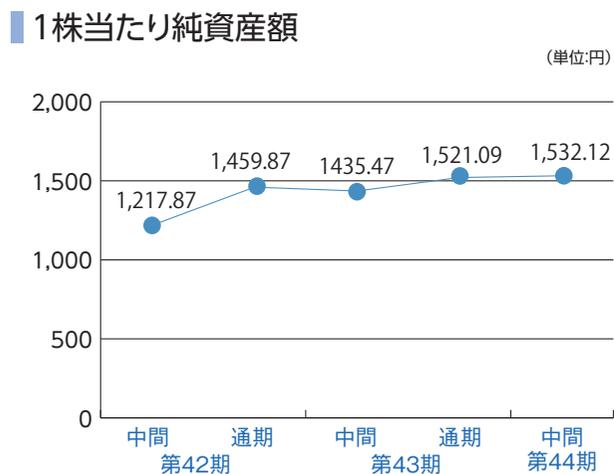
### 成長理念

1. 社員の豊かさを追求する（経済的、精神的）
2. 国・地方自治体により多く納税する
3. 新製品の創造・提供
4. 地域社会への貢献
5. 株主を優遇する
6. 環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

	第42期	第43期	第44期中間	第44期通期(予想)
売上高	14,527百万円	16,622百万円	11,102百万円	26,500百万円
経常利益	546百万円	966百万円	462百万円	1,450百万円
当期純利益	2,229百万円	639百万円	236百万円	870百万円
1株当たり純資産額	1,459.87円	1,521.09円	1,532.12円	—
自己資本比率	57.6%	54.9%	41.2%	—
配当金	20円	20円	10円	10円



\*第42期は当社グループ拡大に伴う負ののれん発生益1,862百万円を計上しております。



## 事業概況

当第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)における世界経済は、米国では雇用の改善や個人消費の拡大により景気回復基調が続き、利上げ時期を模索する展開となり、欧州ではユーロ安を追い風に底堅く推移しました。一方、中国における景気減速の警戒感が広がったことなどから、総じて先行き不透明な中で推移しました。

日本経済においては、中国の景気減速の影響から、これまでの円安、株高基調に陰りが見られるものの、緩やかな回復基調で推移しました。

このような経済状況のもとで当社グループは、刻々と変化する顧客ニーズを捉えた装置の開発と市場化に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高

111億2百万円(前年同期比68.9%増)、営業利益4億61百万円(前年同期は営業損失2億79百万円)、経常利益4億62百万円(前年同期は経常損失1億94百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益2億36百万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億69百万円)となりました。

## 経営の現状と通期見通し

今後の見通しにつきましては、中国の景気減速による影響が懸念されるものの、足元の受注は堅調に推移しております。

このような事業環境のもと、当社グループにおきましては、「規模の拡大」と「高収益体質の確立」の実現をめざしてまいります。従来からの主力であるスマートフォンやタッチパネル、カバーガラスに用いられる液晶関連、電力の制御通信システム、車載用に用いられるパ

ワー半導体関連等における製品群の充実化を図ってまいります。また、今回新たにラインナップに加えた微細気泡発生装置や酸水素ガス発生装置のように、顧客ニーズに合った新製品の開発と投入に注力するとともに、従来から積極的に取り組んでおりますM&A戦略の推進により、販売の拡大を図ってまいります。

通期の業績見通しにつきましては、売上高265億円(前期比59.4%増)、営業利益14億円(同77.8%増)、経常利益14.5億円(同50.0%増)、親会社株主に帰属する当期純利益8.7億円(同36.0%増)を予想しております。

## セグメント別の状況

### セグメント別売上高



当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

### ディスプレイ関連事業

スマートフォンの高機能化とLTE普及により、液晶加熱装置が大幅に伸び、業績は順調に推移しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は71億89百万円(前年同期比73.3%増)となり、セグメント利益は4億44百万円(同136.1%増)となりました。

### メカトロニクス関連事業

高記録密度に対応した新型バーニッシュ装置、及びテストハンドラー装置の大口需要を取り込み、また、電力会社向けの安定した設

備投資需要に支えられ、業績は好調に推移しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は32億34百万円(前年同期比74.0%増)となり、セグメント利益は2億58百万円(前年同期はセグメント損失1億84百万円)となりました。

### クリーニング関連その他事業

クリーニング関連装置分野では、国内の需要の減少傾向が続く厳しい状況が続く中、顧客需要を確実に取り込み、業績は底堅く推移しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は6億79百万円(前年同期比19.8%増)、セグメント利益は30百万円(前年同期はセグメント損失1百万円)となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 平成27年9月30日現在	前連結会計年度末 平成27年3月31日現在
<b>【資産の部】</b>		
<b>1 流動資産</b>	<b>24,841</b>	<b>19,504</b>
<b>2 固定資産</b>	<b>8,339</b>	<b>5,202</b>
有形固定資産	5,472	4,255
無形固定資産	1,153	363
投資その他の資産	1,713	584
<b>資産合計</b>	<b>33,181</b>	<b>24,707</b>
<b>【負債の部】</b>		
<b>3 流動負債</b>	<b>15,349</b>	<b>6,977</b>
固定負債	3,899	3,962
<b>負債合計</b>	<b>19,249</b>	<b>10,939</b>
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	13,683	13,531
その他の包括利益累計額	△3	35
新株予約権	25	23
非支配株主持分	225	177
<b>純資産合計</b>	<b>13,931</b>	<b>13,767</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>33,181</b>	<b>24,707</b>

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間 自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	前第2四半期累計期間 自平成26年4月1日 至平成26年9月30日
売上高	11,102	6,573
売上原価	8,843	5,329
販売費及び一般管理費	1,797	1,523
<b>営業利益又は営業損失(△)</b>	<b>461</b>	<b>△279</b>
営業外収益	42	105
営業外費用	41	20
<b>経常利益又は経常損失(△)</b>	<b>462</b>	<b>△194</b>
特別利益	0	2
特別損失	1	0
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	461	△192
法人税等	173	△12
四半期利益又は四半期純損失(△)	287	△179
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	50	△9
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)</b>	<b>236</b>	<b>△169</b>

4 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間 自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	前第2四半期累計期間 自平成26年4月1日 至平成26年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,105	△1,317
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,801	△44
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,950	280
現金及び現金同等物に係る換算差額	△36	52
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,994	△1,028
現金及び現金同等物の期首残高	7,966	7,806
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,972	6,777

**POINT 1 流動資産**

当第2四半期末の流動資産は248億41百万円となり、前連結会計年度末に比べて53億36百万円増加しております。

これは、以下の増加及び減少の要因が重なった結果となりました。主な増加要因は、当第2四半期末に連結対象となった日本ガーター㈱の流動資産23億円その他、海外の売上拡大により売掛金で24億15百万円、下期の売上に向けた仕込みの増加に起因して棚卸資産で28億47百万円、それぞれ増加したことによるものです。

一方、減少要因は、仕込みの増加により現預金で16億20百万円、有価証券は満期償還と更新による長期への組み入れにより9億67百万円減少したことによるものです。

**POINT 2 固定資産**

当第2四半期末の固定資産は83億39百万円となり、前連結会計年度末に比べて31億37百万円増加しております。主な増加要因は、「流動資産」同様、日本ガーター㈱の固定資産16億45百万円その他、買収によるのれんで8億38百万円、「流動資産」で触れた有価証券更新分を投資有価証券9億52百万円として計上したことによるものです。

**POINT 3 流動負債**

当第2四半期末の流動負債は153億49百万円となり、前連結会計年度末に比べて83億72百万円増加しております。主な増加要因は、「流動資産」同様、日本ガーター㈱の流動負債7億67百万円その他、下期売上の仕込み品の手当てにより支払手形・買掛金で39億55百万円、日本ガーター㈱への融資のため、30億円を短期借入金として資金調達したことによるものです。

**POINT 4 連結キャッシュ・フロー計算書**

当第2四半期累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、38億1百万円の減少(前第2四半期累計期間44百万円の減少)となりました。主な減少要因は、日本ガーター㈱への34億円の貸付けによるものです。

また、同累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローでは、29億50百万円の増加(前第2四半期累計期間は2億80百万円の増加)となりました。

この主な増加要因は、上記34億円貸付けのための資金調達による借入金の増加によるものです。

TOPICS 1

新たに日本ガーター(株)をグループ会社化

日本ガーター株式会社は、電子部品の表面実装用エンボスキャリアテープのパイオニアであり、表面実装用電子部品の検査、梱包という後工程の装置メーカーとしても電子部品市場をメインとして、精密梱包材であるエンボスキャリアテープから検査装置の製造販売迄を一貫して行っております。

エンボスキャリアテープは、0402 (0.4mm×0.2mm厚み0.1mm)に代表される小さい部品を正確に部品実装を行うために必要不可欠なキーデバイスです。

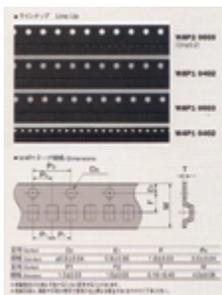
昨今、スマートグリッド、自動車の自動運転の実現に向けてセンサー、制御電装品の増加による低消費電力化と実装部品の表面積の縮小に伴い、人の手で触ることなく製品を高速搬送、特

性検査、外観検査、最終梱包を行い、工程履歴を保存しておける生産装置の需要が高まっています。

当社では、これら各工程の要素技術の開発に、テープから製品検査、梱包装置に至る部分において、いち早く技術開発に取り組み、既に量産品としての供給実績を積んできており、お客様のどのようなご要望にもお応えできるように、更なる技術革新に日夜、取り組んでおります。

また、設備販売、保守について、長年の業歴の中で培ってきました経験豊かな海外人材と主な量産拠点であるアジアの各拠点を生かしたお客様サービスで、当社製品のグローバルな技術サポートを日々積み重ね、お客様とともに成長させていただいております。

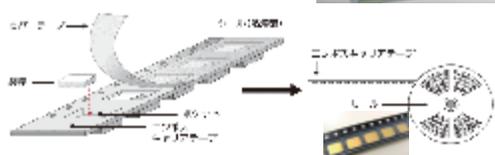
極小極薄エンボスキャリアテープ SMD-LED検査分類機



LED測定器



エンボスキャリアテープ



WLCSP用シートテーピング機



TOPICS 2

環境関連製品を新たにラインアップ

メカトロニクス事業で培った技術から、環境関連製品2機種が新たに製品ラインアップに加わりました。

主要製品



1. 微細気泡発生装置

湖沼、貯水池、養殖池、農業用水等における、富栄養化と溶存酸素の不足から起こるアオコの発生等の不具合を、微細気泡の供給により水質浄化を行う装置。

一般のマイクロバブル発生装置のように清浄水を必要とせず、汚水からも直接、微細気泡の発生を可能としています。



2. 酸水素ガス発生装置

水の電気分解により発生させた酸水素ガスを、ボイラー等の吸気口から導入し、燃焼効率を上げ燃料費削減に寄与する装置。

ボイラーを多用するクリーニング業界の顧客にランニングコスト削減を提案いたします。

ワイエイシイグループは本体4事業部と国内9社、海外6社の関係会社で構成され、幅広く10の事業フィールドに展開しております。

ワイエイシイグループ

ワイエイシイ(株)

メカトロニクス事業部

クリーニング事業部

ディスプレイ事業部

ライティング事業部

関係会社(国内)

(株)ワイエイシイデンコー  
(東京都青梅市)

大倉電気(株)  
(埼玉県坂戸市)

ワイエイシイ新潟精機(株)  
(新潟県妙高市)

(株)ワイエイシイダステック  
(埼玉県戸田市)

ワイエイシイフェトン(株)  
(神奈川県厚木市)

日本ガーター(株)  
(東京都青梅市)

YAC国際電熱(株)  
(東京都昭島市)

(株)NDマテリアル  
(高知県高知市)

交和電気産業(株)  
(鹿児島県出水市)

関係会社(海外)

HYAC Corporation  
(米国カリフォルニア州)

YAC Systems Singapore Pte Ltd  
(シンガポール)

YAC Korea Co., Ltd  
(韓国城南市)

瓦菱新(上海)国際貿易有限公司  
(中国上海市)

紹興微愛新電子設備有限公司  
(中国紹興市)

台湾微艾新科技股份有限公司  
(台湾新竹市)

会社概要

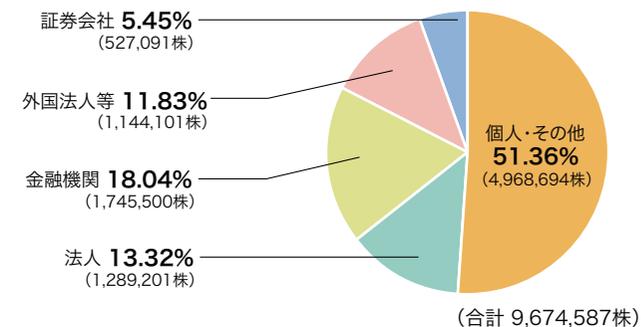
商号 ワイエイシー株式会社  
 英文表示 Y.A.C.CO.,LTD.  
 本社 東京都昭島市武蔵野三丁目11番10号  
 設立 昭和48年5月11日  
 資本金 2,756百万円  
 従業員数 196名 (連結757名)  
 (出向社員・契約社員等の臨時雇用者含まず)

株式の状況

会社が発行する株式の総数		34,388,000株
発行済株式の総数		9,674,587株
当期末現在の株主数		4,207名
個人・その他※	4,057名	4,968,694株
法人	36名	1,289,201株
金融機関	26名	1,745,500株
証券会社	37名	527,091株
外国法人等	51名	1,144,101株

※自己株式を含みます。

所有株式数分布状況



役員・執行役員

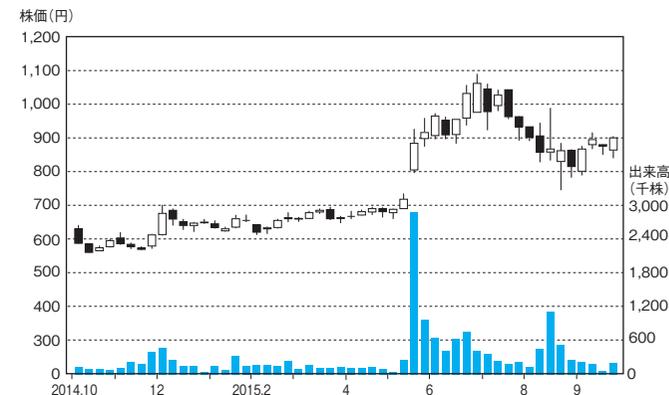
代表取締役社長 百瀬 武文  
 常務取締役執行役員 佐藤 康男  
 常務取締役執行役員 伊藤 利彦  
 取締役執行役員 大福 芳弘  
 取締役執行役員 副島 幸雄  
 取締役執行役員 寺本 和政  
 取締役 石田 祥二 ※社外取締役  
 常勤監査役 東田 明  
 監査役 勝間田 武司 ※社外監査役  
 監査役 高田 直規 ※社外監査役  
 執行役員 曾根田 栄悦  
 執行役員 村野 恒利  
 執行役員 坂本 克幸

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社モトタケ	1,220	12.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	567	5.86
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	424	4.38
百瀬 武文	280	2.89
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	257	2.66
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	255	2.63
株式会社SBI証券	146	1.51
モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社	126	1.30
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	86	0.89
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口6)	86	0.89

※当社は、自己株式を745,697株保有しておりますが、大株主からは除外しております。

株価・株式売買高の推移(週足)



## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日	同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-7111 (通話料無料)
期末配当金受領株主確定日	3月31日		
中間配当金受領株主確定日	9月30日		
定時株主総会	毎年6月	上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	公 告 の 方 法	電子公告により行います
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	公告掲載URL	<a href="http://www.yac.co.jp/">http://www.yac.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### (ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### ホームページのご紹介

株主・個人投資家の方々に対しての  
当社の状況をわかりやすく伝えたコンテンツを  
提供しております。

<http://www.yac.co.jp/>

または、**ワイエイシイ** **検索** で検索ください。



# ワイエイシイ株式会社

〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-11-10  
TEL:(042)546-1161(代表) FAX:(042)546-1107  
URL <http://www.yac.co.jp>